

平成 30 年 8 月 31 日  
日本船主協会 企画部広報室

NYK バルク・プロジェクト  
多目的コンテナ船「Pacific Islander II」の見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、NYK バルク・プロジェクトのご協力のもと、8 月 13 日（月）に神戸市・六甲アイランド（12 名参加）、8 月 14 日（火）に名古屋市・金城ふ頭（16 名参加）、8 月 16 日（木）に横浜市・大黒ふ頭（14 名参加）において、多目的コンテナ船「Pacific Islander II」（全長 161m・高さ 47m）の見学会を開催し、小中学生の親子等が参加しました。



各日、同社 藤原ポートキャプテンの案内のもと、貨物デッキを経由し、操舵室（ブリッジ）や機関室（エンジンルーム）、船長室等を見学しました。キャビンでは本船の概要や主な航路・貨物、乗組員の仕事内容等の説明を受けたほか、本船の船長より参加者への歓迎挨拶も行われ、参加者との交流を深めました。操舵室では、針路をとる上で必要不可欠なレーダーや電子海図、コンパス等の説明を受けるとともに、コンテナの荷役を間近にするなど、参加者は船・港のダイナミックさを体感することができました。



また、船長室では船長の仕事や船員の生活等の説明が本船船長の話を変えて行われたほか、機関室にて、同室は船を動かす要であるとの説明があるとともに、メインエンジンや発電機などの傍を歩くなど巨大な機器を目の当たりにすることができました。

さらに、神戸では本船のクレーンを使ったコンテナ荷役を見ることができたほか、名古屋では貨物デッキにて自動車の荷役見学も実施され、短時間のうちに何台もの車が的確に積み付けられる様子を近距離で見学することができ、「車を積み付ける運転技術の高さに驚いた」との声が多くあがりました。また、横浜では本船の船員が参加者に航海機器の説明を行うなど、普段接することのない船員と交流する貴重な時間を過ごすことができました。

見学中、参加者からは、「コンテナの中にはどんな貨物が入っているの?」「(野菜やアイスもコンテナで運べるという説明に) どのように冷蔵・冷凍しているの?」「どうして航海士を目指したの?」「航海士の仕事をされていて良かったこと・辛かったことは?」など船・船員に関する質問が多く飛び交ったほか、見学会後に実施したアンケートでは、「航海士の仕事に魅力を感じた」「エンジンの仕組みについてもっと知りたくなった」「子供の将来の職業選択肢を広げるのに有用な見学会だった」等のコメントが寄せられ、海運および船員に親しみを持っていただく機会となりました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

